

光明禪寺

第519号

令和七年十二月

現在に活きる

仏の教え

(県・市文化財指定・安置所)

テハ九一〇四〇二指宿市十町南迫田二七六八

電話

21

41217
(2回線)

ケイタイ

090

7981

9123

FAX

24

3519

投げ出さない事。逃げ出さない事。
信じ抜く事。駄目に乍りそうな時
それらが一番大事だ。

十二月の行事

一 晓天坐禪会

第一日(曜)七日
第三日(土)三十一日

朝六時

人の上に立つ限り、非難をまぬか
れることは不可能だ。気にしない
ようにするしか手はない。

一 繹迦如來成道報恩会

八日

二時

一 地藏尊・水子供養

年中行事

納め法要

二十四日

二時

解決策と、うのは、後から振り
返つてみれば、簡単には見つけ
れるようになんた。

悲しい過去よりも、可能性を秘
めた未来を見つめよう。

一 除夜法要

除夜の鐘

45分より
三十一日夜 11時20分

お知らせ

ホームページを作つてから、三年とたちます。それでホームページを見たと言つて初めて写経に来て下さいました。

うれしくうございました。これからも若象がホームページ（源忠山光明禪寺）を見て下さり活気づいてくれればうれしいのですか――

迷いを直視する。

人間は、年月とともに年をとり、やがて死ぬということは誰もが認めていることです。万物は自然現象によつてあるいは、人間の力によつて変えられるといきます。変化しないと思つてゐるところ、実は変わつてゐるのです。私たちもそれに気づいていいのです。あべてのものは変化し、決して不变

恒常でないとすれば、一体何が不变なものなのでしょうか。私たちは、真理は不变なものであります。そして古来、私たちは生死の間に迷う姿は私たちのこの世の姿である。これもまた真実でなければなりません。ああした、こうもして、こうありたいと、文字通りあくせくすることであつて日常の暮らしはそのようにして日々を送り死に近づいてゆくのです。これを迷いの世界というのですか、それを私たちは迷いと思つてはいこうに、日常生活への反省が徹底されていない点があります。眞理を直視し、この迷いの世界の中で私たちの生き方を立て直してゆくことが大切です。しかし、迷いをなくすということは、實際には日常生活を全く否定してしまうことに等しい

のですから、迷いの世界はそれをそのまま認めることによって、新たな世界へと眼を開くようにして、いたいものです。仏の教えはまさにこの新しい世界を示すものにはかなうなのです。私たちの日常の諸行、いろいろなしぐさはすべての迷いの結果であることを知ることによってなし得られます。日常生活の中にも、一度、此の世の生活をかえりみて、世界に眼を開いてみることが大切です。先祖の供養をするのも、世界に目を開き願ひをこめて、仏に礼拝し、如来への帰依を表すためです。変わるものかう變わざるものへ、迷いから真理への道はけんしく、如來へ帰依する以外にその方法はないといふことに気がつくのです。私たちは日々の生活をかえりみて、迷いの世界にあることを認め、新しい世界へ

・老いを自覚する・

「わが生き、仏法はたしなめ」といわれば、行歩もかなはず、ねむたくもあるなり。たゞわが生きとく、「たしなめ」仏法を聞くところとは、わが身の事実に気づかされていくことです。私たちは事実かなが見えず、自分の思いで自分が自分を評価し、自分の思いで世界を見ていることが多いのです。要するに妄想しているのです。妄想に気づかなければ、夢を見ているような人生で終わってしまいます。私たちは自分の「老い」を正確に自覚していけるかといえは、なかなかそうではありません。病気になつて、はじめて年齢を思い知らざるになるのです。ああ自分も年

齡だ、と。しかし喉元すそれは熱さわすが、
というてりたうくです。老いとは、弱つていく
衰えていく、そして肉体が確実にだめになつて
いくといふことです。だれもこの事実から逃
れることはできません。いつまでも元気、元
気と思つてるのは、妄想にすぎません。妄
想は破れ、事実の露呈してくることは、
いかんともしかたいものがあります。この
事実を正視すること、そこから新た
な生活がはじまつてくると思つのです。

老いの苦しみを超える道はないだろうか
と、たずねることです。それは「老いの身」
をこまかさないところにあります。仙法
を聞くとは、「老いの身」の事実を知ら
されていくことでした。そこから、孤独、自
閉、寂しさ、能力の低下に至なれる生
き方が摸索されできます。信心に生
きるとは、無量寿のうちに生きる、

といふことです。無量寿とは永遠
といふことであり、老いも超え、病も超
え、死をも超えたことがあります。永遠
のうちをよりどうとして生きるとは、
限りのある人生が限りない人生になる、
ということです。そのとき私たちの人は
は、日に日に新たな事実の世界の外
にはないこととなります。

訃報

玉利地区の今福ミチ子様が
病気療養中でしたか十一月三十八日
午歳を以て永眠致しました。
ここに故人の御冥福を切に
お祈りします。